

2024年5月7日(火)

(あて先) 仙台市長

主たる事務所の所在地 仙台市泉区北中山3丁目17番12号
その他の事務所の所在地 なし
法人の名称 特定非営利活動法人きらきら発電・市民共同発電所
代表者氏名 水戸部 秀利
電話番号 070-2010-3777

事業報告等提出書

前事業年度(2023年4月1日から2024年3月31日)の事業報告等について、特定非営利活動促進法第29条の規定により、別紙のとおり提出します。

提出書類一覧

- (1) 前事業年度の事業報告書
 - (2) 前事業年度の活動計算書・活動計算書注記
 - (3) 前事業年度の貸借対照表
 - (4) 前事業年度の財産目録
 - (5) 前事業年度の年間役員名簿
 - (6) 前事業年度の末日における社員のうち10人以上の者の氏名
 - (7) 役員変更等届出書、新役員名簿
- 各1部

2023年度事業報告書

(2023年4月1日～2024年3月31日)

特定非営利活動法人きらきら発電・市民共同発電所

1、事業の経過

この法人は、自然エネルギー発電事業を市民共同出資で展開し、地球温暖化を防止し原発再稼働を阻止して、持続可能な社会の実現に資することを目的に活動しています。事業の柱は太陽光発電事業で、2015年若林区井土浜・太白区柳生の2か所に太陽光発電所を開設し、2016年10月塩釜市あゆみ保育所に、2018年8月亘理長瀬に、2019年3月多賀城伝上山に設置。FIT制度終了の2020年からは民家の屋根借りに移行し、同年11月宮城野区蒲生に6号機、2022年3月若林区なないろの里に7号機、2022年10月若林区荒井に8号機、2024年4月泉区南中山に9号機を建設予定です。なお2020年7月、太白区柳生のもりの子発電所(30kw)をもりの子保育園の運営法人宮城厚生福祉会に無償譲渡し、福祉事業に役立ててもらうことにしました。

太陽光発電所の建設基金は152名より7,172万円預かりました。寄付金は昨年泉病院屋上太陽光発電設置募金を実施したことから、新たに273名より1,203万円集まり、開設以来の合計が延503個人・団体より2,261万円となりました。このように、多くの市民の協力を得ながら、きらきら発電は着実に自然エネルギーを増やし続けています。

建設基金の返済は2018年より開始し、2018年424万円、2019年559万円、2020年542万円、2021年322万円、2022年781万円、2023年511万円で、合計3,137万円返済しました。2030年度の完済をめざします。

きらきら発電の太陽光発電所の概要は以下の通りです。

井土浜1号機 仙台市若林区井土字宅地17 2015年9月建設・野立て・50kw
もりの子2号機 仙台市太白区柳生 2020年譲渡 2015年10月建設・屋根・30kw
あゆみ3号機 塩釜市花立町1-16 2016年12月建設・屋根・14kw
亘理4号機 亘理郡亘理町長瀬大橋220-9・220-21 2018年8月建設・野立て・50kw
伝上山5号機 多賀城市伝上山4-8-1 2020年3月建設・野立て(カーポート)・50kw
蒲生6号機 仙台市宮城野区蒲生 2020年11月建設・屋根・12kw
なないろの里7号機 仙台市若林区なないろの里 2022年3月建設・民家屋根借り・3kw
荒井8号機 仙台市若林区荒井 2022年7月建設・民家屋根借り・4.6kw
泉中山9号機 仙台市泉区南中山 2024年4月建設予定・民家屋根借り・4kw
台原10号機 仙台市青葉区台原 2024年10月建設予定・民家屋根借り・4.6kw

2、活動方針に基づく取り組み

(1)基金返済を2030年に終了させることを目標に、毎年600万円返済する。

今年は600万円を目標に26名の方に基金返済を申し入れしましたが、地方選挙など忙しい年だったためか、4名の方が応じてくれず、返済は511万円にとどまりました。来年も600万円目標に返済業務に取り組みます。

(2)2024年泉病院屋上に太陽光発電を設置するための500万円募金を成功させる。

2022年11月に始まった募金は23年4月11日202名のご協力で500万円を突破し、5月の役員会で目標を1,000万円に引き上げました。すると6月1日246名のご協力で1,000万円を突破し、最終的には273名1,203万円の募金を得られました。集まった額が泉病院屋上太陽光だけに終わらない額となったことと、宮城県に対する補助金申請を泉病院が行うこととなったため、集めた募金を「自然エネルギー基金」と名称変更して一般会計より独立させ、今後各種施

設に太陽光発電施設を設置する時の費用とすることにしました。

(3) パソコン交換(2030年~2035年)のための積立金を30万円から50万円に増やす。

パソコン1台交換に40万円ほどの費用がかかることがわかり、50kw発電所一か所で200万円の費用となるため、最低3か所の野立て太陽光発電所の交換費用を作るため、今年から50万円の積み立てを開始しました。

(4)女川原発の2024年2月再稼働をストップさせるため、宮城アクションに結集する。

女川発電所の再稼働は2024年9月に延期されましたが、きらきら発電は23年3月の宮城アクション、23年5月・24年1月の仙台市交渉、24年3月のみやぎ風の会学習会などに積極的に参加し、原発再稼働反対の声をあげてきました。24年3月23日には「さよなら原発全国集会インみやぎ」が開催され、大きな輪となりました。

10月に実施された「止めよう！女川原発再稼働」意見広告(河北新報に掲載)には、きらきら会員が百名以上参加し、きらきら発電自身も名を連ねました。

放射能汚染対策問題にも積極的に取り組みました。放射能汚染廃棄物を焼却する大崎市を相手に住民訴訟を起こした方々を支援する会に結集し、7月9日の琉球大学名誉教授の矢ヶ崎克馬氏の講演会を成功させました。講演会ではIAEAやICRPの基準が内部被曝を全く考えておらず、住民の健康を守る基準ではないことを学び、大崎住民訴訟支援への大きな力になりました。なお大崎地方の市町村では、2023年県外に放射能汚染物焼却を依頼するという新たな動きがあらわれ、放射能汚染の拡散が深刻になっています。

一方で放射能汚染水の海洋放出が23年8月24日に開始され、きらきら発電はニュース紙面で「汚染水、特にトリチウムの危険性」を訴え続け、また24年3月開催された保険医協会の学習会にも参加しました。汚染水放出は永続的に取り組まれる(少なくとも30年間は継続される)大変危険なもので、根本的な解決策は毎日100トンの汚染水が発生することを防止することです。この解決策を求めつつ、アルプス処理水の海洋放出を中止に追い込むため、今後も運動の継続が必要です。

(5)2023年に9号機の建設をめざす。

今年度も民家屋根借り方式を継続し、泉区南中山にパネル4.8kw・PCS4.4kwの太陽光発電を設置することとし、3月資源エネルギー庁の認可が降り、2024年4月工事予定です。来年度(2024年度)は青葉区台原にパネル4.6kw・PCS4.4kw設置する予定です。

なお、基金返済を2030年度に終了させることを今後の優先課題とするため、2025年度より2030年度まで、「民家屋根借り方式」での太陽光発電増設を休止し、2031年度に再開したいと考えます。

(6)気候危機に対応し、気候正義を貫こう。古川くりの木保育園での環境再エネ教育企画

本年度は気温上昇の激しい夏で、異常気象として各種の記録を更新しました。そして夏だけでなく冬も天気の良い日が続き、雪の降る日も減少し、太陽光発電にとっては最高の条件となり、これまでに記録したことのない発電量(335,409kwhで、収入900万円を超えるのは初めて)となりました。発電量の増加はきらきらの経営にとってはプラスですが、異常気象の進行をなんとかしても阻む必要があります。きらきら発電では本年度「ヒートポンプ式湯沸かし器を昼に沸かして、消費電力量を減らそう」という運動を呼びかけました。

また「環境日本一をめざす仙台市民の会」に結集し、気候危機対策に関する10項目の要望書を仙台市に提出しました。また仙台市が集めたパブリックコメントにも、きらきら発電として意見をあげました。気候危機問題で本年度5名の仙台市会議員と懇談しています。

きらきら発電として企画した学習会は、4月29日二本松営農ソーラー近藤恵氏の「有機農業

とソーラーシェアリング」で、36名が参加しました。さらに5月20日井土浜エコタウン・サンアイス構想検討地域協議会を設立し、6月宮城県に補助金申請を行い、それが認可され、9月18日山形大学工学部名誉教授横山孝男氏の講演会を開催しました。しかし地元の農業法人の正式な参加が得られず、事業の継続は断念しました。

自然エネルギー学習講座は本年度3回実施。6月17日大崎市古川のくりの木保育園で、「自然エネルギー学習会」を企画。園児・親御さんを含め26名が参加しました。8月11日と10月28日には井土プチマルシェで「気候危機屋台」を出店し、市民が自然エネルギーへの関心を持つよう、「地球温暖化クイズ」などを実施しました。

自然エネルギー見学会も実施しました。12月1日みやぎ市民電力主催で、仙台市上追沢沈砂池小水力発電を見学。「小水力」とはいえ、間近に見ると大迫力。従属発電と言う立て付けで、釜房ダムから引いた水道局の水を利用。沈砂池設備の手前で導水管に発電タービンを「はめ込んだ」形で、電力メーカーの東芝子会社が運営。落ち葉やごみ対策は釜房ダム湖の取水口でなされており、発電管理がラクで常時無人体制(遠隔管理)とのこと。200kw 定格出力。

今仙台港で木材バイオマス発電所の稼働準備や新規建設が準備されています。日本で最大規模のバイオマス発電です。それを仙台市は自然エネに換算し、CO2削減カウントに加えています。しかし木材バイオマス発電は石炭火力発電よりCO2を排出します。12月2日開催されたカナダ人講師のバイオマス学習会では、木材バイオマス発電の危険性と原生林伐採による自然破壊の進行が報告されました。引き続き、仙台市への要請行動が必要になっています。

(7)再エネの出力抑制への対応

東北地方で2022年度より始まった低圧太陽光発電の出力抑制(この年当法人で4回実施される)が本年度は強化され、井土浜=3月19日、4月1日、5月4日、9月24日、亘理=4月30日、5月4日、多賀城=3月20日、4月23日、5月5日の計9回の制御を確認しました。グラフは5月4日の亘理4号機の発電グラフです。

女川原発が再稼働されたら、さらに出力抑制が強まることは確実です。そこでみやぎ地域・市民電力連絡会に呼びかけ、出力抑制をテーマに11月19日(45名)と3月30日(64名)の2回学習講演会を開催しました。

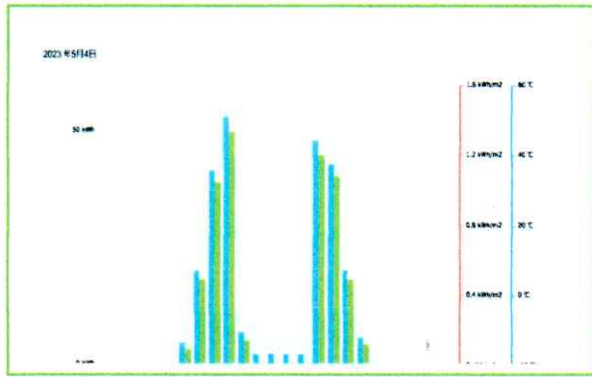
出力抑制は基本的にFITの契約事項(年30日間または360時間までの実施)なので、拒否できません。しかし「気候危機ストップ」のためには自然エネルギーを有効活用することが求められます。したがって再エネの出力抑制をできるだけ抑え、火力発電・木材バイオマス発電をストップさせることが喫緊の課題です。そういう立場から政府の出力抑制への考え方を改めさせる必要があることが、学習講演会では確認されました。

そして3月30日には、みやぎ地域・市民電力連絡会主催の「再エネと市民電力の未来」と題した学習講演会が開催され、ISEP所長の飯田哲也氏が講演してくれました。日本の再エネが世界から取り残されている事実を紹介しながら、出力抑制もまた世界水準ではなく電力会社の利益優先(火力発電の稼働を優先)の実態が示され、政府自身を変えていくことが喫緊の課題であることが浮き彫りになりました。参加者は会場43名、オンライン21名の64名でした。

なお2024年度の固定出力制御日程がひっば市民電力に明示され、去年の倍の日程が組まれることが判明しました。女川原発再稼働が9月に延期されたにもかかわらず、今春の出力抑制の強化が明らかになっています。

(8)出力誤制御問題

きらきら発電や市民電力連絡会が再エネの出力制御を抑えてほしいと社会に発信している時、東北電力は逆に制御する必要のない9月24日に誤制御を起こしました。11月22日付で東北



電力ネットワークがきらきら発電に、9月24日に出
力誤制御を発生させたという文書を送付してしまし
た。原因は「当社サーバーの回収作業」としながら
「最新の更新スケジュールを取得できない状態」と
し、「最新の更新スケジュール取得のための再設定が
必要」で、「今後、現場確認ないまま不要な停止が発
生しても補償はいたしかねる」と居直っています。

そこで12月5日オンラインで東北電力ネットワ
ーク制御担当と懇談。抑制誤作動の原因と今後の対応について協議しました。当日きらきら発電
から「①事態を説明する資料の提供、②再設定費用の貴社負担、③6月4日の抑制理由、④制御
スケジュールの公開」を求めました。電力側は「再設定の費用負担に応じるが、その他の要望は
文書で提出してほしい」と対応。

きらきら発電は東北電力に12月9日文書で質問・要望を行い、その回答が12月19日にあつ
たので、マスコミに公表すべく12月26日県庁記者クラブで会見を持ちました。東北電力の回
答では、9月7日にサーバーに手を加え、10月9日「9月24日発電機が停止した」との連絡が
あり、初めて誤作動を知ったという経緯でした。きらきら発電は12月9日の文書で「再発防止
策」も求めましたが、それには回答がありません。東北電力のサーバーから出力抑制のスケジ
ュールが発信されても、更新できないPCSが存在する以上、誤作動の再発は避けられません。今回
の誤作動はそもそも東北電力側のミスです。それを発電者側に再設定を義務付けるなど、許され
ない対応です。

12月26日の記者会見に参加できなかった河北新報の記者から1月に連絡があり、1月18日
河北記者と懇談。河北は1月23日に紙面に大きく取り上げてくれました。「再設定の費用を東
北電力が負担する」ことを記事にしてくれたことは幸いです。しかも500件ほどの誤作動があ
った事実を紹介してくれました。そしてこの河北の記事を見た中央の再エネ雑誌日経BP社の記
者から2月に連絡をうけ、3月5日取材を受けました。その時中部電力も23年4月16日314
件の誤作動を起こし、翌日マスコミに公表したことが紹介されました。日経BP社は3月中に記
事掲載をして、全国に報道してくれました。しかも東北電力の誤作動は今回が初めてではなく、
2021年にもあったことが明らかになりました。3月30日の学習講演会で、この誤作動問題を理
事長の水戸部秀利氏が報告しました。今後も引き続き、誤作動を生じさせないための取り組みが
求められます。

3、実施体制等に関する事項

(1) 理事会及び総会・監査の開催状況

第95回理事会	2023年4月1日第9回定期総会の準備、泉病院屋上太陽光
第9回定期総会	2023年4月29日開催(内容は今年の事業報告書参照)
第96回理事会	2023年5月13日第9回定期総会の報告、役所への届け出
第97回理事会	2023年6月3日環境日本一をめざす仙台市民の会、井土浜エコタウン
第98回理事会	2023年7月8日ももの木保育園屋上太陽光検討、井土浜サンアイス構想
第99回理事会	2023年8月5日井土浜サンアイス構想
第100回理事会	2023年9月9日泉病院自家消費型へ、井土浜サンアイス構想
第101回理事会	2023年10月14日井土プチマルシェ、会計監査交代人事
第102回理事会	2023年11月10日泉区南中山9号機申請、市民電力連絡会学習講演会
第103回理事会	2023年12月8日自然エネ基金・10周年記念基金創設

第104回理事会 2024年1月13日出力制御誤作動問題、出力制御学習講演会
第105回理事会 2024年2月9日青葉区台原10号機検討、出力制御誤作動問題
第106回理事会 2024年3月8日第10回定期総会議案、記念講演リモート準備
会計監査 2024年4月2日の予定。

(2) 正会員および賛助会員に関する事項(2024年3月現在)

正会員数 81人、賛助会員数 180人(いずれも個人)

(3) 役員に関する事項(2024年3月現在)

役員総数 5人(理事 4人、監事 1人)

代表者 理事長 水戸部 秀利

(4) 職員に関する事項(2024年3月現在)

職員は無し

(5) 事業に参加したボランティア

ボランティア事業は無し。発電所の除草作業に延べ15名のボランティアが参加。

(6) 情報発信体制に関する事項

ホームページ <http://kirakirahatuden.com/>

4. 来年度の活動方針

・太陽光発電の増設

台原10号機建設、泉病院屋上太陽光発電設置支援、古川ももの木保育園設置検討

・気候危機打開・地球沸騰化阻止

自然エネ学習講演会、自然エネ実験出前講座、仙台市への要請、その他

・女川原発再稼働反対・放射能汚染拡散ストップ

能登半島地震により、牡鹿半島沖の海溝型地震だけでなく、内陸型地震の危険性。

避難計画のずさんさ、海洋放出によるトリチウムの危険性、汚染物質拡散阻止

・10周年記念企画

10年の歩みの映像化、10周年記念旅行の準備、10周年記念講演会準備、ほか

以上

2023 年度活動計算書・2024 年度活動予算書

2024 年 5 月 6 日

特定非営利活動法人きらきら発電・市民共同発電所 (単位円)

(2023 年度決算の会計期間は 2023 年 4 月 1 日より 2024 年 3 月 31 日まで)

科 目	2023 年度予算	2023 年度決算	2024 年度予算案
〈収益事業〉発電収入	8,712,315	9,515,061	9,000,000
その他収益	9,600	26,781	12,000
合計	8,721,915	9,541,842	9,012,000
経常費用			
電気代	86,000	57,901	86,000
保険料・保守契約	650,000	607,630	650,000
設備交換積立金	500,000	500,000	500,000
地代	300,000	269,243	300,000
減価償却費	4,365,000	4,365,000	4,365,000
人件費	960,000	990,000	960,000
旅費交通費	70,000	72,751	70,000
通信費	285,000	274,416	285,000
印刷費	50,000	82,164	80,000
事務費	80,000	141,336	80,000
租税公課	600,000	587,100	550,000
会議費	20,000	103,236	20,000
発電所整備費	100,000	145,559	100,000
発電所建設費	1,320,000	1,350,000	1,480,000
合計	9,386,000	9,546,336	9,526,000
当期増減額	-664,085	-4,494	-514,000
〈非営利活動〉 I 経常収益			
1 会費収入	10,000	0	10,000
2 企画収入	0	0	0
3 寄付金・他	600,000	8,885,000	600,000
経常収益合計	610,000	8,885,000	610,000
II 経常費用			
会議費	67,100	55,598	60,000
事務費	12,150	9,658	12,000
印刷費	20,000	0	20,000
企画費・諸会費	80,000	134,100	80,000
10 周年基金	0	500,000	0
自然エネ基金	0	12,000,000	0
経常費用合計	179,250	12,699,356	172,000
当期増減額	430,750	-3,814,356	438,000
当期正味財産増減額	-233,335	-3,818,850	-76,000
前期正味財産額	9,491,990	9,491,990	5,673,140
次期繰越正味財産額	9,258,655	5,673,140	5,597,140

活動計算書注記

1、重要な会計方針

この計算書類はNPO法人会計基準(2010年7月20日、2011年11月20日一部改正NPO法人会計基準協会)によっています。

(1)固定資産の減価償却の方法

固定資産の減価償却方法は、税務署に申請の上、定額法で償却しています。

(2)施設の提供等物的サービスを受けた会計処理

施設の提供等の物的サービスについては活動計算書に計上していません。

(3)ボランティアによる役務の提供の会計処理

役員及び会員の役務の提供は、事務局長の発電業務を日当支給する外、すべて無料ボランティアとしています。

(4)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

2、固定資産の増減内訳

科目	取得価格	圧縮経費	減価償却	期末帳簿価格
土地				1,686,750円
太陽光発電			4,365,000円	39,919,460円

泉区南中山に9号機建設しましたが、家庭用太陽光につき固定資産に含まれません。

3、借入金を増減の内訳

科目	当期借入	前期残高	期末残高
役員借入金	0円	41,340,000円	36,230,000円

(1)2020年度より借入金の返済を開始しました。今年の返済額は511万円。

(2)ほかのNPO法人に510万円基金(無利子)として貸し付けています。

5、役員及びその近親者との取引の内容

事務局長広幡文宅を事務所として提供していただいておりますが、家賃の支払はありません。

貸借対照表

2024年3月31日

特定非営利活動法人きらきら発電・市民共同発電所

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
預金	281,493		
現金	15,437		
棚卸資産	0		
流動資産合計		296,930	
2 固定資産			
(1)有形固定資産			
発電所	39,919,460		
土地	1,686,750		
有形固定資産計	41,606,210		
(2)投資その他の資産			
敷金	0		
投資その他の資産計	0		
固定資産合計		41,606,210	
資産合計			41,903,140
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	0		
預り金	0		
前受助成金	0		
流動負債合計		0	
2 固定負債			
役員借入金	36,230,000		
固定負債合計		36,230,000	
負債合計			36,230,000
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		9,491,990	
当期正味財産増加額		-3,818,850	
正味財産合計		5,673,140	5,673,140
負債及び正味財産合計			41,903,140

2023 年度財産目録

2024 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人きらきら発電・市民共同発電所

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
預金	281,493		
現金	15,437		
棚卸資産	0		
流動資産合計		296,930	
2 固定資産			
(1)有形固定資産			
発電所	39,919,460		
土地	1,686,750		
有形固定資産計	41,606,210		
(2)投資その他の資産			
敷金	0		
投資その他の資産計	0		
固定資産合計		41,606,210	
資産合計			41,903,140
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	0		
預り金	0		
前受助成金	0		
流動負債合計		0	
2 固定負債			
役員借入金	36,230,000		
固定負債合計		36,230,000	
負債合計			36,230,000
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		9,491,990	
当期正味財産増加額		-3,809,163	
正味財産合計		5,682,827	5,673,140
負債及び正味財産合計			41,903,140

2023年度役員名簿

2024年3月31日

特定非営利活動法人きらきら発電・市民共同発電所

役職名	氏名	住所	報酬 有無
理事長	みとべひでとし 水戸部 秀利	塩竈市南錦町5番30号	無
理事	まつうらまこと 松浦 真	仙台市太白区諏訪町15番53号	無
理事	ださいよしあき 太齋 義明	柴田郡柴田町大字四日市場字上山根3番地の3	無
理事	ひろはたあやる 広幡 文	仙台市泉区北中山3丁目17番地の12	有
監事	はっとりけんじ 服部 賢治	仙台市太白区八木山香澄町23番地の21	無

前事業年度の社員のうち 10 人以上の者の名簿

(2024 年 3 月 31 日現在)

特定非営利活動法人きらきら発電・市民共同発電所

氏名	住所
水戸部 秀利	塩竈市南錦町 5 番 30 号
水戸部 登紀子	塩竈市南錦町 5 番 30 号
塚本 二郎	仙台市泉区長命ヶ丘 1 丁目 2 番地の 15
太齋 義明	柴田郡柴田町大字四日市場字上山根 3 番地の 3
武井 あおい	仙台市泉区南光台南 2 丁目 11 番 44 号
金田 基	仙台市青葉区米ヶ袋 1 丁目 3 番地の 43
松浦 真	仙台市太白区諏訪町 15 番地の 53
松本 重夫	富谷市二ノ関字館下 35 番地
高山 摩耶子	仙台市太白区諏訪町 8 番地の 9
野川 ちひろ	仙台市泉区北中山 4 丁目 25 番地の 5
広幡 博子	仙台市泉区北中山 3 丁目 17 番地の 12
広幡 文	仙台市泉区北中山 3 丁目 17 番地の 12

役員名簿

特定非営利活動法人きらきら発電・市民共同発電所

役職名	ふりがな 氏名	住所	報酬の 有無
理事長	みとべ ひでとし 水戸部 秀利	塩釜市南錦町5番30号	無
理事	ださい よしあき 太斎 義明	柴田郡柴田町大字四日市場字上山根3-3	無
理事	ひろはた あやる 広幡 文	仙台市泉区北中山3丁目17番12号	無
監事	はたけやま しんご 畠山 紳悟	大崎市古川宮沢内林30	無